



## プレスリリース

2018年8月24日

報道関係 各位

公益社団法人 日本糖尿病協会  
日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社  
日本イーライリリー株式会社

### 日本ベーリンガーインゲルハイムと日本イーライリリー 日本糖尿病協会監修のもと、糖尿病の合併症リスクの啓発ウェブサイトを開設 ～「糖尿病は、気づかないうちに血管を傷つけます」～

公益社団法人 日本糖尿病協会(東京都千代田区、理事長:清野 裕、以下「日本糖尿病協会」)、日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社(東京都品川区、代表取締役社長:青野 吉晃、以下「日本ベーリンガーインゲルハイム」)、日本イーライリリー株式会社(兵庫県神戸市、代表取締役社長:パトリック・ジョンソン、以下「日本イーライリリー」)は、このたび、日本糖尿病協会監修のもと、糖尿病の合併症のリスク啓発ウェブサイト(「どうなる? どうする? 糖尿病」:<https://www.dounaru-dm.jp/>)を開設したことをお知らせ致します。

糖尿病は、食事・運動療法、服薬アドヒアランス等、患者さんの主体的な取り組みが、治療目標達成の成否にかかわります。しかし、糖尿病は初期の段階では自覚症状が乏しく、患者さん自身が主体性を持って治療に取り組みにくい傾向にあります。このような疾患の特徴からか、患者さんの合併症の認知率や理解度についても様々で<sup>1</sup>、患者さんが合併症のリスクについて理解し納得したうえで、主体的に治療に取り組むことが、糖尿病治療の目標達成に重要であると考えられています<sup>2</sup>。

日本ベーリンガーインゲルハイムと日本イーライリリーは、日本糖尿病協会監修のもと、糖尿病患者さんやそのご家族が、糖尿病の合併症について正しい知識を身に付け、早期から合併症を見据えた治療に取り組み、糖尿病の治療目標達成をサポートすることを目的として、糖尿病の合併症のリスクを啓発するウェブサイトを開設しました。

この啓発サイトを監修した日本糖尿病協会の清野 裕 理事長は次のように述べています。

「糖尿病の恐ろしさは、自覚症状がないまま合併症が静かに進んでしまうことです。逆に、合併症の発症を抑える事が出来れば必要以上に恐れることはありません。だからこそ、合併症のリスクを見据えて早期から血糖をコントロールする事が何よりも大事で、その後の合併症の予防につながるのです。」

**啓発 Web サイト「どうなる? どうする? 糖尿病」:**<https://www.dounaru-dm.jp/>

啓発 Web サイトでは、糖尿病の合併症について、より理解を深めていただくとともに、食事・運動を基本として、治療に積極的に取り組むことによって合併症発症のリスクを回避につながることをお伝えします。また、患者さんが糖尿病合併症について主治医に相談される際のチェックシートも掲載し、合併症リスクに備えるために主治医とともに前向きに取り組んでいただくことを応援しています。



日本ベーリンガーインゲルハイムと日本イーライリリーは、糖尿病患者さんのよりよい血糖コントロールの実現のため、今後も糖尿病患者さんとそのご家族に寄り添ったサポート活動を通して糖尿病治療に貢献してまいります。

以上

## 参考情報

### 日本糖尿病協会について

日本糖尿病協会（英文表記：Japan Association for Diabetes Education and Care）は、糖尿病を克服し国民の健康の増進に寄与することを目的に、「糖尿病の予防と療養についての正しい知識の普及啓発」、「患者・家族と広く予備群の方々への療養支援」、「国民の糖尿病の予防と健康増進のための調査研究」、「国際糖尿病連合の一員として糖尿病の撲滅を目的とした国際交流」などの事業を行う公益社団法人です。

患者さん、医師・歯科医師、コメディカルスタッフ、市民・企業などで組織され、全国に会員の患者さんと医療スタッフで作られた約 1,600 の糖尿病「友の会」と、47 の都道府県糖尿病協会があり、約 105,000 人の会員が連携して上記の事業を行っています。

### ベーリンガーインゲルハイムとイーライリリー・アンド・カンパニーの提携について

2011 年 1 月、ベーリンガーインゲルハイムとイーライリリー・アンド・カンパニーは、糖尿病領域におけるアライアンスを結び、同領域において大型製品に成長することが期待される治療薬候補化合物を中心に協働していくことを発表しました。同アライアンスは、ベーリンガーインゲルハイムが持つ研究開発主導型イノベーションの確かな実績とイーライリリー・アンド・カンパニーが持つ糖尿病領域での革新的な研究、経験、先駆的な実績を合わせ、世界的製薬企業である両社の強みを最大限に活用するものです。この提携によって両社は、糖尿病患者ケアへのコミットメントを示し、患者のニーズに応えるべく協力しています。

### ベーリンガーインゲルハイムについて

患者さんの健康と QOL（生活の質）を改善することは、研究開発主導型の製薬企業ベーリンガーインゲルハイムの使命です。私たちは治療選択肢が存在せず、未だ十分な治療法が確立していない疾患に焦点を合わせ、患者さんが健やかな生活を確保できる革新的な治療法の開発に専念しています。アニマルヘルスでは、先進的な病気の予防と早期発見・早期治療に注力しています。

ベーリンガーインゲルハイムは世界におけるトップ 20 製薬企業の 1 つで、1885 年の設立以来、株式を公開しない企業形態を維持しています。約 50,000 人の社員が、医療用医薬品、アニマルヘルスおよびバイオ医



薬品の3つの事業分野において、革新的な製品開発を通じた価値の創出に日々取り組んでいます。2017年度、ベーリンガーインゲルハイムは約181億ユーロの売上高を達成しました。研究開発費は30億ユーロを超え、売上高の17.0%に相当します。

株式を公開しない企業形態の特色を生かし、ベーリンガーインゲルハイムは世代を超え、短期的な利益ではなく長期的な成功を重視しています。したがって、私たちは、研究活動において、自社のリソースに加えて、オープンイノベーションと戦略的アライアンスを重視し持続的な成長を目指しています。ベーリンガーインゲルハイムは、私たちが関連するあらゆるリソースを尊重し、人類と環境に対する責任を果たしていきます。

### イーライリリー・アンド・カンパニーの糖尿病事業について

イーライリリー・アンド・カンパニーは1923年に世界で初めてインスリン製剤を開発して以来、糖尿病ケアの分野において常に世界をリードしてきました。現在も、糖尿病をもつ人々やケアを行う人々の様々なニーズに応えることで、この伝統を築いています。研究開発や事業提携、拡大し続ける幅広い医薬品ポートフォリオ、そして、医薬品からサポートプログラムをはじめとする実質的なソリューションを提供し続けることを通じて、世界中の糖尿病をもつ人々の生活の改善に努めます。詳細はウェブサイトをご覧ください。

### イーライリリー・アンド・カンパニーについて

イーライリリー社は、世界中の人々の生活をより良いものにするためにケアと創薬を結び付けるヘルスケアにおける世界的なリーダーです。イーライリリー社は、1世紀以上前に、真のニーズを満たす高品質の医薬品を創造することに全力を尽くした1人の男性によって設立され、今日でもすべての業務においてその使命に忠実であり続けています。世界中で、イーライリリー社の従業員は、それを必要とする人々の人生を変えるような医薬品を開発し届けるため、病気についての理解と管理を向上させるため、そして慈善活動とボランティア活動を通じて地域社会に利益を還元するために働いています。

### 日本イーライリリーについて

日本イーライリリー株式会社は、米国イーライリリー・アンド・カンパニーの日本法人です。人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう、革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じ、がん、糖尿病、筋骨格系疾患、中枢神経系疾患、自己免疫疾患、成長障害、疼痛、などの領域で日本の医療に貢献しています。

詳細はウェブサイトをご覧ください。

<https://www.nittokyo.or.jp/>

(日本糖尿病協会)

<http://www.boehringer-ingelheim.com>

(ベーリンガーインゲルハイム)

<http://www.boehringer-ingelheim.jp>

(ベーリンガーインゲルハイムジャパン)

<http://www.lilly.com>

(イーライリリー・アンド・カンパニー)

<http://www.lilly.co.jp>

(日本イーライリリー)



## REFERENCES

1. 「糖尿病と合併症リスクに関する認知度実態調査」 日本糖尿病協会  
2008/5-6 40 歳以上の日本糖尿病協会の本部会員および糖尿病患者(男性 396 人、女性 280 人、無回答 4 人)  
[https://www.nittokyo.or.jp/modules/about/index.php?content\\_id=25](https://www.nittokyo.or.jp/modules/about/index.php?content_id=25)
2. 日本糖尿病学会 科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン 2013 22 糖尿病の療養指導・患者教育